

ヒューマンメディア財団
情報誌「ヒューディア」

vol.23
Jun. 2014

HU-DIA



デジタルクリエイターコンテスト2014
応募作品より

ヒューマン
メディア
財団の
めざすもの

Introduction

財団紹介

ヒューマンメディア財団（正式名称：公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター）は、情報通信技術（ICT）とマルチメディア技術の融合した技術である「ヒューマンメディア」を創造し、既存産業の高度化や新産業の創出を図り、地域経済社会の発展に貢献することを目的として設立された法人です。

北九州市の外郭団体でもある本財団は、平成8年4月の設立以来、北九州市と連携しながら、これまで様々な事業を実施し、地域産業の振興に取り組んでまいりましたが、国の公益法人制度改革に伴い、平成24年3月23日に内閣総理大臣から公益認定を受け、同4月1日をもって「公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター」として新たにスタートしました。

当財団は、ヒューマンメディアの利活用により、地域の資源やエネルギーの節減、地域産業の活性化の推進、地域住民の生活の利便性の向上を目的とする3つのビジョン、「スマートシティ・ソリューション」「デジタル成長社会ソリューション」「デジタル利便性社会ソリューション」の実現を目指しています。

地域社会の低炭素化 スマートシティ・ソリューション

エネルギー（電力、ガス）通信、交通、水道といった都市の資源を賢く使うソリューション

- HMCビルスマートオフィス化事業

先進的なICT戦略提言

地域中小企業の事業の発展 デジタル成長社会ソリューション

農業、商業、サービス業、コンテンツ業等の中小企業、スタートアップ企業、情報化の遅れた産業の情報化と付加価値向上の支援

- 北九州e-PORTの発展・利用推進
- EMサイトの運営
- 農業におけるICT活用の検討
- ネット活用販路拡大支援事業（eコマース）
- ユビキタスマール活性化支援事業
- 人材育成事業

地域住民の利便性の向上 デジタル利便社会ソリューション

超高齢化時代に対応する「医療、介護、買い物、コミュニティネットワーク等」のライフサポート基盤の整備・構築に関連するソリューション

- 「位置情報プラットフォーム」の利活用による新サービスの創出
- 地域密着就活サイト「キタナビ」の構築
- 介護分野におけるICT活用事業
- 地域連携による安全生活支援事業

平成26年度の主要な取組み

平成26年度の主要な取組みとして、4つの分野に重点的に取り組むこととしています。

- (1)ICTによる地域課題解決プラットフォームの形成とその利活用
- (2)ビッグデータ、オープンデータの利活用法（行政、医療、介護ビジネス分野）
- (3)高齢化社会に対応する新たなデバイス（ウェアラブルコンピュータ※1等）の活用
- (4)パーソナルファブ리케이션（※2）支援（特にデザイン人材の育成）

※1 ウェアラブルコンピュータ(wearable computer)とは、身につけて持ち歩くことができるコンピュータのこと。

※2 パーソナルファブ리케이션とは、企業による大規模大量生産を示すマス・プロダクションに対して、パソコン・ネットワークを利用し、3Dプリンター・レーザーカッターなどにより、ほとんどのものづくりを個人により行うもの。

Member,s (五十音順、敬称略)

役員 [10名] (平成26年4月1日現在)

代表理事

高橋 孝司 公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 理事長

理事

大川 博己 北九州市 産業経済局 企業立地・食ブランド推進担当理事

近藤 倫明 公立大学法人北九州市立大学 学長

庄司 裕一 北九州情報サービス産業振興協会 会長

塚本 寛 北九州工業高等専門学校 校長

永田 健次 公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 理事

廣瀬 香 一般社団法人九州経済連合会 社会資本部長

松永 守央 国立大学法人九州工業大学 学長

監事

鈴木 雅子 北九州市 会計室長

丸尾 俊文 日本テレコムインフォメーションサービス株式会社 代表取締役

評議員 [8名] (平成26年4月1日現在)

網岡 健司 新日鐵住金株式会社八幡製鐵所 総務部開発企画室長

生山 武史 株式会社安川電機 人事総務部長

石丸 靖彦 TOTO株式会社 総務部長

尾家 祐二 九州インターネットプロジェクト 会長

下川 徹 株式会社高田工業所 取締役兼執行役員 技術本部長

鈴木 勝男 西日本電信電話株式会社 北九州支店長

戸上 勝喜 九州電力株式会社 執行役員北九州支社長

東 敏昭 学校法人産業医科大学 学長

賛助会員 [29団体] (平成26年5月1日現在)

株式会社アクシス

株式会社エリアサービス

株式会社北九州銀行

北九州商工会議所

新日鐵住金ソリューションズ株式会社

新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所

株式会社スピナ

セイコーエプソン株式会社

株式会社ゼンリンデータコム ソリューション事業部

ソニービジネスソリューション株式会社

ソフトバンクテレコム株式会社

株式会社ソルネット

データキューブ株式会社

TOTO株式会社

西日本コンピュータ株式会社

株式会社西日本シティ銀行 北九州総本部

株式会社日鉄コミュニティ 九州支店

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本電気株式会社 北九州支店

早原特許技術事務所

株式会社ビーフロント

ビズ・コレジオ株式会社

株式会社日立製作所 九州支社

富士通株式会社 九州支社

安川オピアス株式会社

安川情報システム株式会社

株式会社リンク

株式会社ロココ

株式会社ワンビシアークイブズ 九州支店



地球に

やさしい

テナントビルを

めざして

Smart Community

スマートコミュニティ

地域節電

東田地区全体のエネルギーを見る化し、マネジメント。



地域発電所 (コジェネ)
天然ガス発電所
(新日鐵住金株式会社
八幡製鐵所所属)



地域節電所 (CEMS)
まち全体の電力を見る化し、一元管理。

省エネルギー改善

オフィスの消費電力の70%をしめる空調と照明を最新の省エネ機器にリプレース。



CCFL管
(H24年度導入)

オフィスの照明には、蛍光管と比べて、40%の節電が可能。CCFL管を採用しました。CCFL管の光は、LEDと比べて光の広がり方が広いので人にやさしく、室内照明等に適しています。



空調、ビルオートメーション
(H25年度導入)

最新の省エネ型の空調設備に全館入替を実施しました。また、BA (ビルオートメーション) 導入により、無駄のない運転とBEMSとの連携が可能となりました。



計画

再生

BEMS

見える化

自動制御

節電

用語解説

〈BEMS〉

Building Energy Management System
ビル内のエネルギー監視システム。
ビル内の配電設備、空調設備、照明設備、換気設備、OA機器等の電力使用量のモニターや制御を行う

〈CEMS〉

Cluster/Community Energy Management System
地域内のエネルギー監視システム。太陽光発電所や風量発電所を含む発電所での電力供給量と地域内での電力需要の管理を行う

〈コジェネ〉

Co-Generation, 熱電供給
天然ガス、石油、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン等により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収して、再利用するシステム

〈CCFL管〉

Cold Cathode Fluorescent Lamp
冷陰極管の略称。一般蛍光灯〔熱陰極管〕と比べ、長寿命かつ細管化に優れ、ノートPC、液晶TVの光源としても長年使用されてきた

設備の自動管理

テナントごとのオフィス環境や行動にあわせて、ストレスのない省エネ環境に自動調節。



空調自動制御
(H24年度導入)

事前にテナントが指定した「省エネレベル」に応じて、BEMSが指令を出して省エネ運転を行います。



照明自動制御
(H24年度導入)

スマートフォンが最適な照度を判断し、照明に指令を出します。これにより窓からの外光を利用した、照明の自動制御を実現しました。

参画企業 安川情報システム株式会社、アズビル株式会社、株式会社豊光社

マイルストーン

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
創エネ	風力発電設備の導入/太陽光発電設備の導入/省エネ見える化の導入	省エネ 第1期 空調設備取替工事 BEMS導入	第2期 空調設備取替工事/CCFL管の導入
見える化	ビルエネルギー表示を開始(1階玄関前)	電力量・温度センサー導入(2階) ビルエネルギーポータルサイト構築	電力量・温度センサー導入(全館)
		自動制御) CEMSとの連携開始 平成23年度次世代エネルギー・社会システム実証事業	空調自動制御の実証/照明自動制御の実証 平成24年度次世代エネルギー・社会システム実証事業



エネルギーの再生(創エネ)

自然エネルギーを賢く利用してビルに供給。

風力発電 3kw
(H22年度導入)
つば付きディフューザーにより高効率、低騒音。

太陽光発電 10kw
(H22年度導入)
ビル敷地のデッドスペースを有効利用。

エネルギーの見える化

BEMS画面でテナントごとに省エネ行動のジャッジができる。ビル1Fロビーのディスプレイにエネルギー状況を表示、テナント全体で共有。

テナント向けポータルサイト
(H23年度導入)



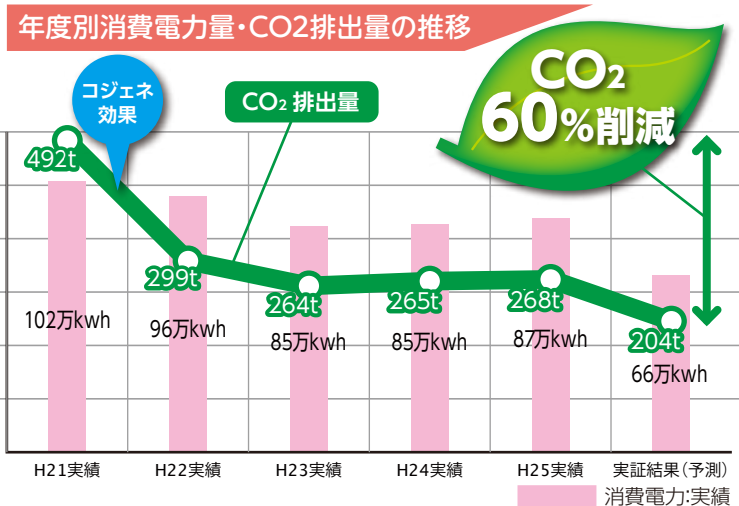
平成25年度	平成26年度
第3期 空調設備取替工事	
<p>拡大・ビジネス化</p> <p>空調自動制御のレベルアップと全テナント展開 照明自動制御のレベルアップと全テナント展開 国内外へのビジネス展開</p>	
<p>CO2 50%削減達成</p> <p>次世代エネルギー・社会システム実証事業</p>	

ICTを活用しての財団ビル的大幅な省エネと二酸化炭素排出量50%削減を目標に、平成22年度から取り組んできました。

風力や太陽光の発電設備を導入するとともに、BEMS(ビル・エネルギー・マネジメント・システム)と連動した空調・照明の自動制御システムを構築し、スマートで快適なオフィス空間を提供しています。

さらにCEMSと連携して電力のピークカットやダイナミックプライスに自動的に対応することで、オフィスの快適性を損なわずに節電効果を上げ、地域のエネルギー・マネジメントにも貢献しています。

平成26年度はこの節電システムを、よりレベルアップし、ビジネス展開することで「デジタルエコ社会」の実現と「地域ICT産業の活性化」を目指していきます。



平成26年度の実施内容

アズビル株式会社
空調制御
・通期での効果実証
・実証範囲の拡大

株式会社豊光社
照明制御
・照明制御機能を改良
・実証範囲の拡大

安川情報システム株式会社
BEMSの融合
・CEMS・空調・照明と連携したBEMS機能の強化

HMCの課すべき事業イメージ

テナントへの展開

- 実証エリアの提供
- 設計参加・機器の導入
- 協同検証への参加

PR活動拡販支援

ビジネスモデル検討
ビジネス展開への支援

・北九州パック1プロダクトとして、財団ビルに組み込まれた装置をパッケージ化
・市と同調して、広く国内、外にプロモーションする。

北九州スマートコミュニティパッケージCEMS・コジェネ

水素系自然エネ系 FEMS・住宅系 BEMSオフィス・病院・学校むけ

パック-I パック-II …… パック-X

A社製薬 B社 C社 …… X社

HMCパック

テナント向けBEMS

- 照明自動制御
- 空調自動制御

デジタルによる
新しい

ものづくりを
より多くの人に

Personal fabrication

パーソナルファブリケーション支援事業



3Dプリンターについて質問する子どもに優しく説明。MONOCAFE会場「博多図工室」ブースにて

デジタル技術の進展が、新しいものづくりの流れを生み出しています。

デジタルデータから樹脂や金属の立体を出力する3Dプリンターや、レーザー光で素材を加工するレーザーカッターなどのデジタル工作機器の小型化、低価格化が進み、中小企業や個人での利用も増えてきました。これらの機器の導入が進む地域の大学や施設等の関係者を中心に、地域のデジタルものづくりコミュニティが生まれています。

地域の人材・機材を活用して、大人や子どもが遊んで学べる様々なワークショップや、デジタルものづくりの発表・交流の場としてのイベント「MONOCAFE」を開催し、別事業のデジタルクリエイターコンテストとも連携することで、デジタルものづくりの裾野をひろげ、新しいデジタルクリエイターやビジネスの創出につなげていきます。

MONOCAFE

- ◆平成25年9月22日(日)、23日(月・祝)
- 会場:西日本総合展示場
- 3Dプリンター、プロジェクションマッピング、ロボット等の展示
- メディアアートの最先端を語る「真鍋大度×柳澤知明トークカフェ」等のステージの実施



デジタルクリエイター工房ワークショップ

- ◆平成26年1月～3月(全3回)
- 会場:九州共立大学
- 大人向けのレーザーカッター、arduino(電子工作)等のワークショップを平日夜に実施



子ども向けプログラミング学習支援 どきどきプログラミングワークショップ in 北九州

NPO法人CANVASがGoogleの後援を受けて、全国展開している子ども向けプログラミング学習支援プロジェクトPEG (Programming Education Gathering)のパートナーとなり、一般向けセミナー、講師向け研修、子ども向けワークショップを開催しました。小型コンピューター「Raspberry Pi(ラズベリーパイ)」とプログラミング言語「Scratch(スクラッチ)」を用い、プログラミングを通じて、楽しみながら子どもたちの創造力、問題解決力、コミュニケーション力等を育みます。

今後も地域のデジタルものづくりコミュニティと協力し、地域の施設や大学等の人材・機材を活用することで、継続的に、大人も子どもも遊びながら学べる機会を提供していきます。教える側の人材育成にも取り組み、新時代のクリエイターの育成や、新しいビジネスの創出等につなげていきます。

どきどきプログラミングワークショップ in 北九州

- ◆平成26年3月21日(金・祝)
一般向けセミナー、講師向け研修
- ◆平成26年3月22日(土)
子ども向けプログラミングワークショップ
会場:西日本工業大学小倉キャンパス



左)プログラミング言語「Scratch(スクラッチ)」
右)小型コンピューター「Raspberry Pi(ラズベリーパイ)」

アート
×
デザイン
×
テクノロジー

digital creator contest

北九州デジタルクリエイターコンテスト



未来を担うデジタルコンテンツクリエイターの発掘と、地域のコンテンツ産業の育成を目指して「北九州デジタルクリエイターコンテスト」を開催しています。

第8回目となる 2014年は、「重なりあう〈リアリティ〉 Layered Reality」のテーマのもとに、映像・CG・アニメ・静止画・WEB・インスタレーション・ガジェット・マンガ作品など各募集ジャンルの一般部門およびジュニア部門に、全国から 225作品の、あらたな世界を表現するデジタルアートの応募がありました。

年々応募作品のクオリティも高くなり、各芸術系大学からの応募など、クリエイターから注目を集めています。

入賞作品は「北九州市漫画ミュージアム」に展示され、今後は地元企業等に利用されるよう働きかけていきます。

北九州デジタルクリエイターコンテスト2014

<http://www.human-media.or.jp/media/kdcc/2014/index.html>



大賞：「WORMY」水井 翔



MONOCafe賞：
「山田太郎プロジェクト 東京×ベルリン」ノガミ カツキ



小林茂審査員賞：
「あさ」スズキ ハルカ



宝珠山徹審査員賞：
「僕のパニーガール」金 泰亨(キム テヒョン)



タウンマネジメント魚町(梯輝元)賞：
「メメント・モリー」金子 友紀

オープン
データを

身近な
ものへ

Open Data

オープンデータ利活用促進



行政機関が保有する公共データなどを、広く開かれた利用ができるような形で公開したものが、オープンデータです。誰でもインターネットから簡単に自由にアクセスでき、広く利用しやすい形で提供された、どんな方法で活用してもよいオープンデータを使うことで、さまざまな新ビジネスの創出や地域経済の活性化をねらい、市民生活の利便性の向上や自治体業務の効率化などにつなげていけるよう取り組んでいます。

オープンデータデーin北九州

◆平成26年2月22日(土)
会場:ヒューマンメディア財団ビル

世界中の国や都市などの公共機関が取組んでいるオープンデータ政策をサポートし、公共データ利用を促進するために世界同日開催された「International Open Data Day」に北九州市も拠点参加しました。

「北九州市の観光客を満足させる」「若者が北九州市に定住する」というテーマのもと、まちづくり関係者・IT企業関係者・行政関係者・学生などのみなさんが複数のグループに分かれて、北九州市の持つ魅力発信に繋がるアイデアを出し合い、練り上げて、より優れたアイデアを生み出しました。

今後は、ここから生まれた「北九州市改善アイデア(個人案が54個、グループ案が7個)」を、新しいサービスの創出へつなげていくための支援を行います。

オープンデータの活用事例

[WHERE DOES MY MONEY GO? 税金はどこへ行った?]

自分の払った税金が1日あたりどう使われているかを知ることができるサイトで、自治体のWebサイトなどに公開されている予算や決算のオープンデータと、イギリスの Open Knowledge Foundation が開発したオープンソースプログラムをもとに開発されています。北九州市の情報も掲載されています。
<http://spending.jp/>



International Open Data Day
2014
in Kitakyushu, JAPAN



農業×ICTで
作業を活性化
円滑化
効率化

Agriculture project

農業プロジェクト



農業プロジェクトは、ICTを活用することで農家の生産を高め、地域の農業を活性化させることを目指しています。

現在、国政および市政において農業分野での成長戦略が打ち出されていますが、依然として農業分野ではICTの導入が遅れています。生産者は、ICTを活用した、生産や流通の効率化や高収益化への期待は持っているものの、中規模農家や個人農家までには、導入にまで至っていないのが現状です。

このような現状を踏まえて、このプロジェクトでは、小規模な、農業流通事業でも利用可能な出荷管理システムや、小規模農家でも簡単にスマホやタブレットから収益管理と営農状況が把握できる、営農支援システムを提供しており、まもなく地域のICT事業者と協業で市場展開する予定です。

さらに、新たな取組みとして、作物の供給と需要家をICTで結びつけ、需給のバランスを最適化することにより農業の収益性を高め、地域の農業を活性化させることを目的とした流通支援システムの制作を計画しています。

将来的には、これらのICTを有機的に結合し、地域農家の高収益化と新規就農者の拡大をめざした農業ポータルサイトの実現を目指しています。

また、農家とICT事業者間のつながりを活性化するためのセミナーを主催して、毎年、多数の来場と好評をいただいております。

農業×ITマッチングセミナーin北九州 「今こそ日本農業の底力を見せる時！ ITとの融合による未来の農業」

◆平成26年2月7日(金)

農業生産者とIT事業者の交流およびネットワーク拡大のためのセミナーを開催。

講演会終了後は、採れたていちごの大盛り皿や地元野菜を中心とした料理を囲みつつ、講演者と参加者の交流の場を提供。



農業者が現場でモバイル端末(タブレット)経由で手軽に作業日誌を記入することで、生産管理者が容易に生産コストと収益の確認が可能になったシステム



次世代を
担う

技術者育成を
めざして

Advanced IT human

高度IT人材育成事業



地域の情報サービス系企業が必要とするIT人材の育成を目的とした、研修・セミナー・講座を通年で実施しています。

IT大学校では、これまでのマネジメント能力向上やスキル向上を目指した講座に加えて、スマートフォンやタブレットを使った北九州発のアプリケーション開発を目指す人材を発掘・育成するための講座を展開します。

今後は、さらに若い世代の育成を目指し、学生や就職・転職を目指す若年層や、中高生・大学生らを対象に、アイデアソン・ハッカソン(※)にてアプリケーション開発を行う体験型研修を開催する予定です。

あるテーマをもとにアプリケーションやWebサービスにつながるアイデアをグループで出し合ってまとめていく「アイデアソン」、アイデアソンで生まれたアイデアをもとに、短期間集中して実際にアプリなどを開発し、プレゼンテーションを行う「ハッカソン」の過程でコミュニケーションを深め、共同作業を行うことで創造する喜びを感じて貰うことで、地域にIT関連分野に興味を持つ若者を増やし、次世代を担う人材の育成を目指します。

また、地域のIT従事者・クリエイターや学生などがICTに関する勉強会を開催する場合は、会場提供・人材紹介等の支援を行っています。

※アイデア(Idea)とマラソン(Marathon)、開発(Hack)とマラソン(Marathon)を組み合わせた言葉。

人材育成研修予定

- ◆平成26年度 開催予定講座
 - ・プロジェクトマネジメント実践講座
 - ・ビッグデータ利活用人材育成講座
 - ・情報セキュリティセミナー
 - ・Androidで学ぶJava入門講座
 - ・ホームページ作成講座

その他、研修・セミナー・講座の日程・内容についての詳細は、ヒューマンメディア財団ホームページやFacebookページに順次掲載します。

講座・研修のご案内

<http://www.human-media.or.jp/lecturetraining02.php>



ICTサービスの
集積拠点の
北九州
e-PORT

Kitakyushu e-PORT

北九州e-PORT構想に基づく事業の推進

ICTサービスをいつでも誰でも簡単・便利に使える社会づくりを目指して、北九州市の産学官が連携し、北九州市東田地区を中心とした地域に、ICTサービスの集積拠点「北九州e-PORT(情報の港)」の整備を2002年より進めてきました。今では、データセンターや情報倉庫、コールセンターなど、多くのICTサービス基盤がこのエリアに集積しています。



今後もこれらの集積を活かしながら、さらなる集積を高めつつ、新しい事業やサービスの創出を目指します。その指針となるのが「北九州e-PORT構想フェーズⅢ(2011年4月～2015年3月)」です。

フェーズⅢでは、北九州市の利点である、地震や津波などの自然災害の少ない地域・交通や通信などの都市インフラが充実・安価な電力資源の存在・理工学系の教育・研究機関が多く立地、といった様々な点をアピールしながら、北九州e-PORTへのメインサイト移転・誘致を目的に、今後ニーズが拡大するとみられるクラウド・データセンターの拠点として、事業継続を支援する拠点として、積極的なプロモーションを行っています。

北九州データセンター アジアン・フロンティア
(株式会社IDCフロンティア)



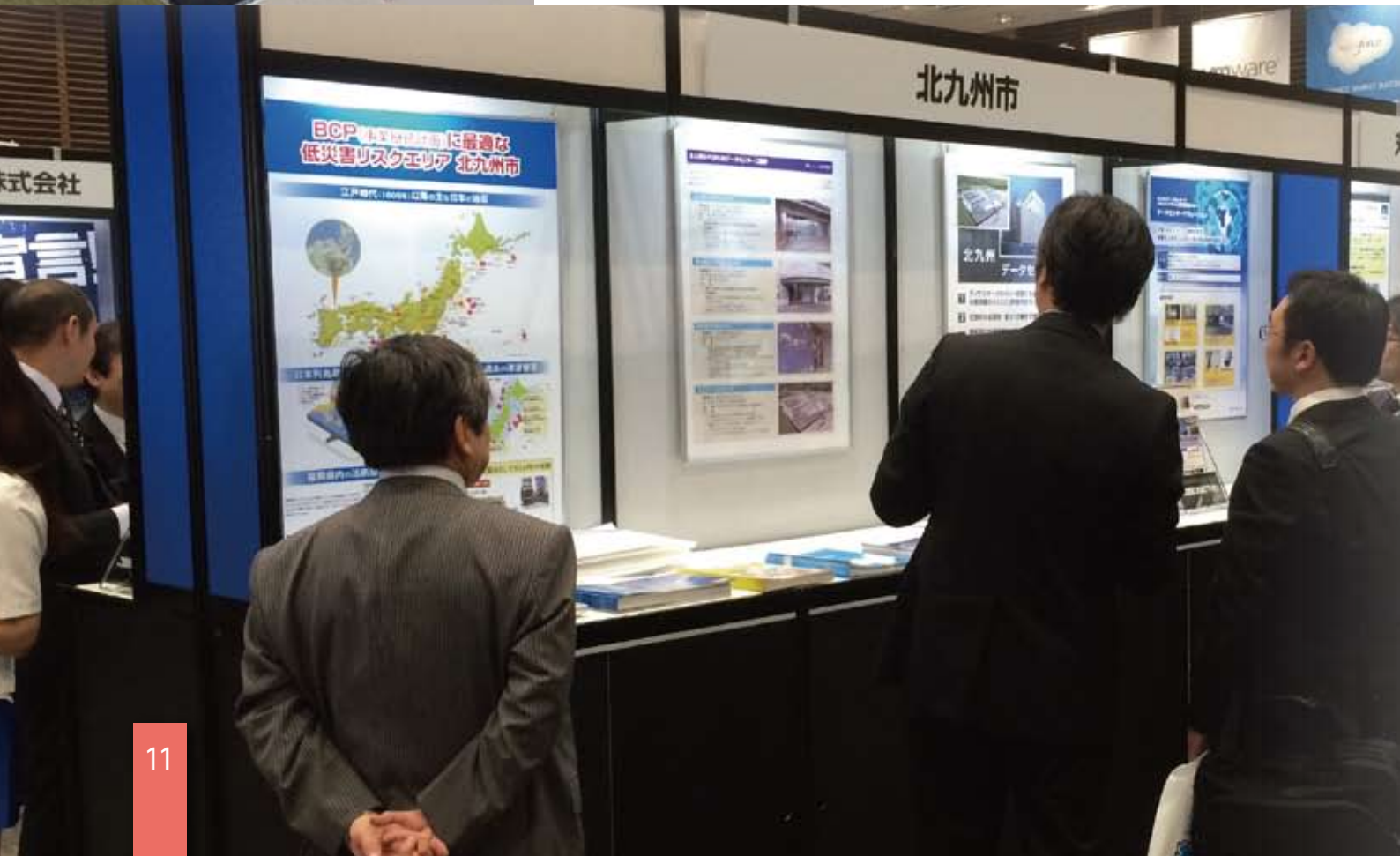
展示会出展

ITpro EXPO 2013

◆平成25年10月9日(水)～11日(金)

Cloud Days Osaka 2014 春

◆平成26年3月6日(木)・7日(金)



e-PORTから 世界へ 大きくはばたく

セリフを入力するだけで、表情豊かなキャラクターによる動画の制作・配信が手軽にできる「スマートアバター」シリーズは、現在e-PORTにサーバを設置して運用されています。

e-PORTを活用して事業展開している、有限会社BOND代表取締役の古川ひろ美さんにお話を伺いました。

—ヒューマンメディア財団との出会いは？

開発している「スマートアバター」を運用するサーバの手配に困っていたところ、支援企業様を紹介されたことから始まりました。現在「スマートアバター」で作成された動画はヒューマンメディア財団ビルロビーに設置された広報サイネージへ導入されています。

活躍する「スマートアバター」キャラクター

—「スマートアバタークリエイター」について

番組作成システム「クリエイター」では、感情類型データベースと連携した人工知能を持つアバターキャラクターがテキストや音声を受けると自動でセリフにあわせた表情や仕草などを考えて動き、専門知識もいらず手軽な操作のみで動画作成ができます。PCだけではなくスマートフォンなどのモバイルからも操作でき、豊富なキャラクターや背景などの素材を組み合わせるだけで、様々な番組作りができます。ビール工場での広報(※1)や、大学や研究施設の研究成果発表や授業教材(※2)としての動画作成に導入されています。



「世界」に触れて大きな自信につながる

—昨年は「第13回MITビジネスプランコンテスト&クリニック(BPCC13)」(※3)で優秀賞(第1位)を受賞

ファイナリストたちはビジネスプランのブラッシュアップを続けた後、指導者と合宿、様々な角度からの厳しい指摘と指導を受けました。たとえ大企業でなくてもよいアイデア、よいビジネスプランさえあれば差別なく平等な評価をしてくれるが、指摘される内容は厳しい。論理的であること、数字に落とし込むこと、事業内容をどう伝えていくかのコミュニケーション力を徹底的に求められました。これを体感し、自らのフィルタに通していったプロセスが、どういう環境においても自分はやっていける自信につながりました。短気を起こしたり反論していると学ぶものはなかったと思います。

—受賞による変化は？

世界最先端の情報やビジネスに通じた方々に評価されたことで、信頼度・認知度は企業の信用と併せて向上しています。提携の引き合いも来ています。

ますます広がるコミュニケーションの可能性

—今後の展開は？

キャラを使った音声通話サービス、キャラクタービジネスにもつなげたいと思っています。また、海外展開も視野におき、すでに国際特許も申請中です。日本語よりも発話の再現率が高いので、ますます多くの可能性が広がります。

(※1)アサヒビール(株) (※2)九州大学、公益財団法人九州先端科学技術研究所
(※3)MIT(マサチューセッツ工科大学)傘下の、日本MITエンタープライズフォーラムが主催

BOND
http://f-bond.co.jp

有限会社BOND
〒803-0801 福岡県北九州市小倉北区西港122-10
TEL:093-561-5521
1950年設立



安全・安心で

快適な

介護サービスを
生み出すために

Care project

介護プロジェクト



写真協力：社会福祉法人 年長者の里

安全・安心でかつ快適な介護サービスの実現を目的とした、ICTを活用し介護現場の負担軽減と情報共有を行う「介護サービス提供記録システム(すま〜とヘルパー)」の導入支援を介護事業者へ向け行っています。

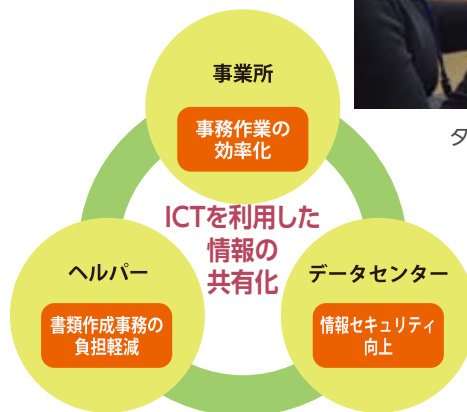
「すま〜とヘルパー」は、訪問介護先でタブレットから記録した介護データをリアルタイムにデータセンターに蓄積します。

データセンターを介して事業所との伝達・報告をスムーズに連携する事で訪問介護1件あたりの拘束時間を減らすとともに、タブレットには介護データが残らないため、重要な介護データを持って回る事がなくなり、ヘルパーは安心して直行直帰勤務をする事ができます。

またデータセンターに蓄積した介護データを活かしサービス提供後のレセプト業務やスケジュール調整など事務作業の負担を軽減し、介護業務にゆとりを生み出すことで介護サービスの向上も図れます。

「すま〜とヘルパー」は、各種展示会にも出展し、地域への展開や市内企業のビジネス拡大・参入の促進を進めています。

「すま〜とヘルパー」導入効果



タブレットでスマートに介護記録を登録

展示会出展

九州テクノフェア

◆平成25年10月16日(水)~18日(金)
一般向けセミナー、講師向け研修

西日本国際福祉機器展

◆平成25年11月22日(金)~24日(日)
ブース来訪者への説明、パネル展示等を行いました



メディア制作
環境を
支える
設備の提供

eMsite

エムサイト

<http://www.human-media.or.jp/activity/emsite/index.html>



映像や音楽などのコンテンツ制作に関する様々な活動を支援する施設「エムサイト東田」では、映像の企画から撮影・編集までをトータルでサポートできるよう、撮影機器・映像編集スタジオ・ナレーションブース・レコーディングスタジオ等を完備し、地域の企業や起業家、学生などに貸し出しをしています。

プロジェクトマッピングにも使える高輝度プロジェクター、ハイビジョンカメラ等を貸出機材に加え、地域のメディアクリエイターやメディア産業を支援しています。

また、「エムサイトAIM」では、地域メディア系企業のためのインキュベーションスペースを提供しています。

設備や利用料金等、詳しくはエムサイトのWebサイトでご確認ください。



● HMCビル 施設利用のご案内



*施設の予約や空き状況確認はインターネットのご利用が便利です。< <http://www.human-media.or.jp/foundation/facilityuse.html> >

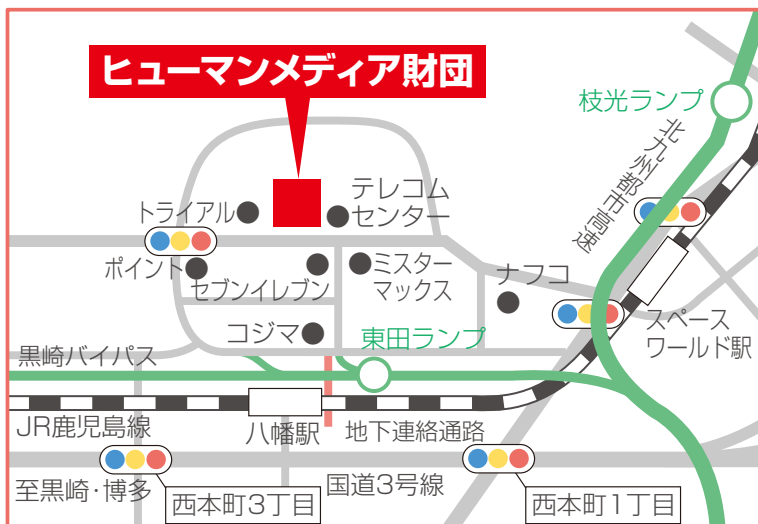
	マルチメディアホール(1階)		セミナールーム1(2階)		セミナールーム2(2階)	
広さ	239㎡ 3人掛け・スクール形式[最大105席]またはシアター形式(椅子のみ)[最大150席]		52㎡ 2人掛け・スクール形式[最大18席]		50㎡ 2人掛け・スクール形式[最大18席]	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・大型スクリーン採用(150・170インチ:サイズ変換式) ・高品質のDLPプロジェクター採用 ・音響設備(ドルビーデジタル、DTS、THXなどのサラウンド音響システムを使用可能) ・インターネット利用可能。光回線使用で高速通信が可能 		<ul style="list-style-type: none"> ・小・中規模会議に使いやすい「機能的な場」を提供 ・セミナールーム1と2は連動しており、2室を1室として利用可能 ・円卓形式の配置も可能 ・DVD/VHS/CDが利用可能 *注意1 ・インターネット利用可能。光回線使用で高速通信が可能 *注意1 *注意1・・・セミナールーム2のみ利用の場合は利用不可 			
利用例	講演会、セミナー、発表会、展示会、音楽会、懇親会、パーティ等お客様のニーズに対応した各種イベント・レイアウトが可能		様々な小・中規模の会議、討論会、役員会、面接会場など、お客様のニーズに対応したレイアウトが可能			
利用料金	一般	賛助会員等	一般	賛助会員等	一般	賛助会員等
	8,400円/1時間	4,200円/1時間	1,800円/1時間	900円/1時間	1,800円/1時間	900円/1時間
	セミナールーム1・2連動					
	一般			賛助会員等		
3,600円/1時間			1,800円/1時間			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・マイク、パソコン、ホワイトボードの貸出(無料) ・オペレーターを必要とする場合は、別途オペレーター料(20,000円/1日)を加算 					

◆ヒューマンメディア財団 施設ご利用受付(受付時間: 9:00~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く))
TEL 093-663-1235 FAX 093-663-1289

※消費税は含まれておりません。

Access アクセス

JR八幡駅から徒歩5分



公益財団法人 九州ヒューマンメディア創造センター (略称：ヒューマンメディア財団)

805-0071 北九州市八幡東区東田1丁目5番7号
TEL 093-663-2950 FAX 093-663-2955

ホームページ
<http://www.human-media.or.jp>

Facebook
<https://www.facebook.com/HMC.Kyushu>